

令和 8 年度第 5 回北広島町まちづくり総合委員会 議事録(要旨)

日時：令和 8 年 10 月 5 日（月） 14：00～

場所：北広島町役場本庁 2 階 会議室

1. 開会

2. 開会あいさつ

副町長

これまでの度重なる審議にご協力いただき感謝する。第 3 次北広島町長期総合計画の最終的な調整段階になってきた。皆様方のご意見をいただき、最終的な取りまとめを行っていきたいと考えている。本日もよろしくをお願いしたい。

3. 委員紹介

欠席：藪委員、長本委員、開内委員、宇川委員、上原委員、畑中委員、川本委員

4. 議事

委員

資料が見やすくなって良かった。準備を頑張っていたいたと思う。

委員

「共創」という言葉が繰り返し使われているが、この「共創」というところにどういう意味を持たせるのか、どういう意味合いで使っているのか確認したい。基本方針の 1 に記載があるが、一緒になって取り組んでいこうということなら「協働」でも良いと思う。「共創」にしているので、そこに「この町の価値を未来の力に」というところもリンクさせているのではないかと思った。

事務局

「共創」という言葉は、これまでのアンケートや町民の皆さんとの取り組みの振り返りとして、行政や住民だけではなくというキーワードであり、これまで取り組んできたものをもう一步踏み込んだ意味合いで、今回「共創」という単語を使っている。

委員

新しい言葉で、新しい価値を作るという意味合いもあると思うので、そういう言葉を掲げるのが魔法の言葉になってしまわないように、具体性を持たせるような紐付けをしたほうが良いと思う。

委員

「共創」と同じように「縮充」についても何を意図しているのかが分からない。縮充とはどういう考え方が分かる方が良いと思う。

また、計画の推進方策、庁内各部署の横断的な連携のところで、「本町の人口維持・拡大で地域の活性化を最優先とした」となっているが、これは修正したほうがよいと思う。人口拡大は理念にも入っておらず、ふさわしくないと思う。推進方策の1、2、3、4が機能していけば後の施策はうまくいくと考えるが、この推進方策をどのように進めていくかが施策分野のどこに反映されているのか。例えば連携による推進で「重点的な取り組みを中心に施策の選択と集中、評価を行い計画を推進」と書いてあるが、どのように評価をするのか、どういう視点から評価するのか。地域との連携も何かしら位置付けが必要で、この推進方策が土台にならないと、従前のようにそれぞれの事業が勝手に進んでいって、最後評価する際によく分からないということになりそうなので、推進方策を具体的にどう進めていくかを明記する必要があると思った。

事務局

人口維持・拡大の表記については修正する。推進方策についても、各分野を庁内全体でどのように実効性を持って進めていくか具体的に検討する。

委員

推進方策の庁内各部署の横断的な連携ということで、1つ1つの分野で目標を立てるのはわかるが、例えば複数部署にまたがっている問題を解決していく時に、どこが担当するのか

わからないことがある。横断的な連携とは何なのか、具体的に示さないと進まないのではないか。

事務局

この部分については、表現を修正している。縦割りにならず横も見ながら進めていけるよう、実効性のある体制を整理する。

委員

やめる部分や縮小する部分もしっかりと考え、その分の予算や人員をどこに集中的に投入するのか、「縮充」という言葉を並べるだけでなく、精査し、施策を無くしていく旨の文言も入れた方がよい。

また、計画第3章の「計画の推進」について、「まちづくりの将来像の実現に向けて」の箇所に様々な記載がある。基本理念が決まり、基本構造と重点方針も3つに絞られてまとまりは良くなったと思うが、10年後に何をもってゴールとするのか、明確にした方がよいと思う。人づくり・仕事づくり・つながりづくりの各重点方針に対して、アンケートや数値で判断できる評価基準・項目を明文化した方がよいと考える。

事務局

縮充の表現や、10年後の目指すべき姿・KPIの設定について、より測定しやすい数値やイメージも含めて準備・検討を進めていく。

委員

数値というかイメージでも良い。数値はKPIの方で出ていると思う。

事務局

基本理念がそれに近いイメージとなる。個別のイメージを示すのは難しいが、基本理念に基づいてしっかりとまちづくりを進めていくという形で整理したい。

委員

推進方策(2)の「地域との連携」だが、「地域」というのがよく分からない。基本理念

の中には「つながり」というのがあり、町内の人がつながるだけでなく町外の人たち・関係人口の人たちともつながっていかうという意味合いがあるので、これらの連携という風に意味合いを変えた方が良いと思う。「4つの地域協議会を中心に」となると限定的になってしまうので、町民や関係人口も含めた広い意味での人とのつながりをやっていくような書き方にできないか。地域協議会はなかなかそのようには機能しないと思う。

委員

(2)の地域ではなく、(4)の民間事業者・関係機関の中に外の人を入れるか、あるいは(5)として地域外の人を入れるというのはどうか。町が行う施策の焦点としては「地域」は4つの地域を指すのであって、そこに町外の人を入れるのは優先順位としてもう少し後ろでもよいと思う。

委員

見るべきところはもちろん町民や地域だが、施策としては企業や関係人口になっていただけの方も含めてやっていくという意味合いだと思うので、分ける必要があると考える。

委員

関係人口の人はあくまで関係であり、そこに住まう人とは温度感が違うと思う。そのため、(4)や(5)の優先順位としてあるのは良いが、(2)で地域の人と同じ重みで関係人口の人も担うのは少し負担が大きいと感じた。

委員

それなら「住民との連携」という表記にし、(4)等で民間事業者や関係人口など多様な主体とパートナーシップを取るという形にするのはどうか。

委員

ではその方向で検討してもらえるか。

委員

推進方策をどう施策分野に取り込んでいくかという点だが、行政が全体的にやる部分が

施策分野の5に当たると思う。そこに官民が定期的に検討する仕組みを設けるなど位置付けるのはどうか。「健全な行財政改革を進める」というのは当たり前のことで、その代わりに総合計画全体をコントロールする体制や進捗管理の仕組みを施策分野の中に組み込んだらどうか。

委員

それが27ページにある「効果的な施策の改善を行うためまちづくり総合委員会を引き続き設置」ということだろう。これまでの繰り返しにならない形でチェック機能を果たすことが重要だと言いたいのではないか。

委員

民間や地域との連携の中で、他自治体ではKPI自体も町民が参画して決める事例もある。この総合計画が走り出した時に、評価対象の数字を官民交えて決められるような場があればよいと思う。今回ではなくてよいが、来年度から始まる際にお互いに理解し合った目標を立てたい。

委員

今言われたようなことが本当に実現できれば素晴らしいことではある。KPI設定に住民が関与すれば自分事感が増すだろう。子育て支援などテーマを絞って計画期間内で定めて検証していくなど、行政運営にあたって取り入れていただきたい。

委員

町民としても、地域協議会等が補助金を求めたり事業要望を出したりする際に、「この重点方針のどこに沿っているか」という位置付けを意識して取り組んでいくことが具体化に繋がると思う。

事務局

昨年度の評価検証の中でも資料の見やすさやKPIの考え方についてご意見をいただいた。町民が実感できる評価のあり方やシステムのあり方についてすり合わせを行いつつ進めてまいりたい。

委員

課題の部分で、学校と地域を結ぶコーディネーターの話や、プロジェクトを進める際の中間支援組織の話を以前したが、具体的な言葉として入っていない。学びの提供のところで、具体的に誰が進めるのかという時に、明確なコーディネーターの手配や配置を位置付けてほしい。また中間支援組織について、官民・中間支援組織が一体となって動く伴走支援の体制があれば、まさに共創だと思う。

事務局

ご意見を踏まえ、盛り込み方や表現について検討する。

委員

今の意見に賛同する。コーディネーターという存在があれば非常に心強い。

また、前回9月の会議の時は重点方針が8個あるのは多いと意見したが、今回分かりやすく簡潔になって良かった。

委員

先日、B&Gの第三の居場所に行った際に、外部から来られたスタッフの方に「春木から来ました」と挨拶したところ「春木ってどこですか」と言われた。外部を入れて運営する際、地域を結ぶコーディネーターが本当に必要だと感じる。現在、学童クラブ単体など縦の動きが多いため、横の連携を強めていけることを望む。

委員

資料がすっきり整理された。細かい点だが、施策分野1のところで外部企業・法人との連携という話と、集落営農組織等の経営体強化の話で、どちらを支援していく形になるか。

事務局

両方の視点を含めて記載の整理をする。

委員

資料がアップデートされて見やすくなった。住民アンケートなどで「働く場が不足している」とある一方で、有効求人倍率が 6.5 倍など高い数値が出ている点について、このギャップはどう捉えているか。また、企業の誘致やインターン事業などの取り組み結果について、それを行ったことでどのような変化があったか見えるようにできたらよいと思う。

事務局

求人自体はあるものの、住民が望む魅力的な働く場とのミスマッチ・ギャップがあると考えている。取り組みによる具体的な成果・町民への効果についても表現を工夫したい。

委員

資料が大変見やすくなった。色々課題はあると思うが、しっかり進めてほしい。

委員

基本構想のイメージ図について、循環のイラストがしっくりこない。10 年後の計画として、伝統や文化を守るだけでなく新たな価値を生み出していくことが重要な中で、イラストが具体的すぎると「これを守らなければならない」という捉え方になりかねないのではないかと。新たな価値を生み出していくことが伝わる表現が良いのではないかと思う。

委員

基本構想のイメージ図について、生きていける町というのは伝わるが、ここで生きていきたいと思えるような町とはならない。かっこよさや新たな魅力も伝わりと良いのではないかと思う。

委員

基本構想のイメージ図については、北広島町ならではの価値（自然、文化、人）を未来の力に変えていくという理念を表したものであり、DX 等も活用しながら進化させていくという意味合いだと捉えている。その良さを発信し理解してもらうことが大切である。

委員

委員の意見のように、北広島町の良さを発信し理解してもらえるような動きが必要ということが言いたかった。町として1つにまとまっていく10年にしていきたいと考える。

委員

10年という期間の中で、北広島町が一丸となって、子供たちが成長して関わっていけるよう、子育てや教育を通じた取り組みが重要だと思う。そういった意味でも、町として一つにまとまっていく動きは大切である。

委員

図の色合いについて、前は柔らかい印象だったが、今回ははっきりしすぎて視覚的に強烈な印象を与えるかもしれないと感じた。

事務局

「この町の価値」の「文化」を表すアイコンとして神楽や花田植などを採用したが、表現やタッチについては検討したい。

委員

伝統を守りつつ、時代に合わせて変化させていく多様性が大切だと思う。

委員

基本構想と重点方針、施策分野の順番について、重点方針と施策分野の順番がかみ合っていないように思う。仕事づくり・人づくり・繋がりづくりの重点方針での並び順に沿って、施策分野の順番を整理するとより分かりやすくなると思った。

委員

委員の意見に関連して、教育や子育て、子供に関する視点が裏の大きなテーマとしてあると思うため、記載の順番を調整し、その重要性を明確に示しても良いのではないかと思う。

委員

施策分野の順番を重点方針と近いものに変えるというのは検討材料として、順番として早いものが優先といった意見だが、考え方としては循環しているので、どれも重要なのでどれかというものではないと思う。未来を担う教育などについて重視するというのは全くその通りだと思う。

事務局

施策分野の並び順や構成について検討する。

委員

未来を担う子供たちへの教育や、伝統文化を通じた国際交流・地域での取り組み（多言語避難訓練など住民協働の事例）は非常に重要だと思う。先日、壬生の花田植えについて、地域の団体が韓国で国際交流を行った。このような海外でも公演するような機会が増えていけば良いと思う。

また、地域との交流について、消防団と住民との交流イベントがあり、避難所等で住民への研修があった。第一回の研修では海外の方が参加し、言語の壁がある中で、どこの国の方かもわからず翻訳アプリを使ったがスムーズにいかずとても時間がかかった。しかし、会話を重ねる中でどこの国の出身かわかるとスムーズに翻訳アプリを通してコミュニケーションが取れるようになったので、やはり住民同士の普段からのコミュニケーションは重要だと思う。また、こういうことが協働のまちづくりなのではないかと思う。

委員

基本構想のイメージ図の初心者マークのようなアイコンは何か。

事務局

守っていくという意味合いでの盾である。そのような混同があると思うので、もっと分かりやすい表現を検討していきたい。

委員

パブリックコメントの実施に関して、高校生や住民と一緒に計画を読み合って意見を出す会を行う際、職員の方に説明に来ていただくことは可能か。

事務局

「まちづくり出前講座」等を活用していただき、ぜひ説明・意見交換の場に伺いたいと思う。

委員

パブリックコメントでどれくらい意見が集まるのか、周知方法はどうなっているか。

事務局

広報誌、LINE、ケーブルテレビ等を活用して周知しており、前回（5年前）は60件程度の意見があった。今回も集まった意見を整理して対応していく。

委員

多くの町民に関心を持ってもらえるよう、積極的に提出を呼びかけていきたい。

5. その他

事務局

次回（第6回）は11月16日（月）14時より、本日と同じ場所（北広島町役場本庁2階会議室）を予定している。

6. 閉会あいさつ

財政政策課長

皆様、長時間にわたり熱心なご審議をいただき感謝する。長期総合計画の策定も大詰めを迎えている。本日いただいた貴重なご意見やパブリックコメントでの意見を踏まえ、最終決定に向けて調整を進めていきたい。引き続きよろしくお願いしたい。

7. 閉会